十字架上の七つのことば 第2回「あなたは今日私と一緒に楽園にいる」

するとイエスは、「よく言うておくが、あなたは今日私と一緒に楽園にいる」と言われた。

(ルカ 23:43)

1. 背景

主イエスと一緒に二人の犯罪人が十字架につけられました。罪なき方があたかも「罪人のかしら」のように晒され、ゼベダイの子たちの母親が二人の息子を主イエスの左右の座に就かせてほしいと願ったこと（マタイ 20:21）が二人の犯罪人に置き換えられているかのような状況は、実に皮肉に映ります。犯罪人の一人は最後までイエスをあざけり続けましたが、もう一人は「我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない」と認め、さらに「イエスよ、あなたが御国へ行かれるときには、私を思い出してください」と願いました。その信仰告白に答えて、主イエスは「あなたは今日私と一緒に楽園にいる」と約束されたのです。この場面は、死の直前に初めて信じた者にも救いの門が開かれていることを示しています。

2. 意味

このことばには二つの大切な意味があります。

① 救いは恵みによるものである

犯罪人は善い行いを積んだわけでも、償いを果たしたわけでもありません。ただ主イエスにすぎる信仰をもって「思い出してください」と告白しました。その一言に対して救いが約束されたのです。救いは行いによらず、信仰による恵みであることがここに示されています。

② 救いの確かさと今ここでの約束

主イエスは「いつか」ではなく「今日」と言われました。死を目前にした罪人に、すぐに与えられる確かな救いを告げられたのです。楽園（ユダヤ的背景では「エデンの園」を指す言葉であり、「神の臨在の中にいる場所」）は、死後の希望（最終的な祝福に入るための待合室）であると同時に、イエスと共にいる関係そのものを指し示しています。

3. 適用

私たちの救いも同じです。行いによってではなく、ただ信じることによって与えられる恵みです。また、救いの確かさは「死後どうなるか分からない」という不安を取り除き、「今日」から主イエスと共に生きる希望へと変えてくれます。私たちは家族や友人の救いを願い祈りますが、どんな人生を歩んできた人にも、最後の瞬間にさえ開かれている救いがあるという希望を持つことができます。

4. 祈り

「イエス様、あなたが十字架の上で一人の罪人に与えてくださった確かな救いを感謝いたします。私たちが自分の行いや努力ではなく、恵みによって救われていることを思い起こさせてください。家族や友人、まだあなたを知らない方々が、あなたを信じ、共に樂園に迎え入れられる希望を持つことができますように。今日もあなたと共に歩む者として生きられますように。この祈祷会を通して、救いの希望を分かち合う群れとしてください。」